

2017年1月10日  
公益財団法人イオン環境財団  
東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構

対話型パネルディスカッションを通じて、参加者と共に持続可能な社会への提言を行います

## 第1回「イオン未来の地球フォーラム」開催

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下、当財団）と東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構（機構長 武内和彦 以下、当機構）は2月25日（土）、東京大学武田ホールにて環境教育セミナー「イオン未来の地球フォーラム」を開催します。

当財団は「環境教育」を事業活動の一つに掲げ、これまで環境分野の人材育成を目的とした大学生向けのフォーラムの開催、環境作文コンクールの実施、太陽光発電システム寄贈による再生エネルギーの学習機会提供などを、国内外の各教育機関と連携してきました。本年より新たな取り組みとして、市民の皆さまにも広くご参加いただける「イオン未来の地球フォーラム」を東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構、日本学術会議と連携して5年計画で開催します。

本フォーラムでは、持続可能な地球社会のための国際研究プロジェクト、フューチャー・アースの理念も取り入れ、地球の環境変化やそれに伴い生じる問題について、参加者と共に解決方法を考え、実行策を議論します。初回の本年は、地球と人の健康をテーマに、持続可能な開発目標（SDGs）に触れながら解説した後、対話型パネルディスカッションにおいて議論を深めます。議論の成果は提言に取りまとめ、国内外に発信します。

当財団ならびに当機構は今後も、かけがえのない美しい地球を次世代の子どもたちへ引き継ぐため、環境教育を通じて環境問題に積極的に取り組んでまいります。

### 記

日 時	2017年2月25日（土）13:00～17:00	
場 所	東京大学浅野キャンパス 武田ホール（東京都文京区弥生2-11-16 武田先端知ビル5階）	
主 催	公益財団法人イオン環境財団 東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）	
後 援	日本学術会議、フューチャー・アース日本コンソーシアム、フューチャー・アース、 環境省、文部科学省、総合地球環境学研究所、国立環境研究所	
募集人数	200名（参加無料）	
テーマ	いま次世代と語りたい未来のことー地球と人の健康ー	
講演者	「地球温暖化と雨を考える」 東京大学大気海洋研究所教授 高藪 縁	「健全な海洋生態系を将来に残すために今知っていなければならないこと」 国立研究開発法人海洋研究開発機構理事 白山 義久
モデレーター	国立環境研究所地球環境研究センター 気候変動リスク評価研究室長 江守 正多	
出席者	日本学術会議会長、フューチャー・アース日本コンソーシアム代表 大西 隆	
	公益財団法人イオン環境財団理事長、イオン株式会社名誉会長相談役 岡田 卓也	
	東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構長 武内 和彦	
	東京大学客員教授、フューチャー・アース国際事務局日本ハブ 事務局長 春日 文子	
	東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構教授 福士 謙介	

以上

## 【公益財団法人イオン環境財団の取り組み】

### 公益財団法人イオン環境財団（以下、当財団）について

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立。以来、環境活動に取り組む団体への助成・支援、国内外での植樹活動、生物多様性の保全などに貢献した団体・個人への顕彰、環境人材育成のための環境教育を主な事業として、さまざまな環境・社会貢献活動を継続しています。▶公益財団法人イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

### 「アジア学生交流環境フォーラム (Asian Students Environment Platform: ASEP)」

当財団はグローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的に、2012年から毎年、大学生を対象とした環境教育活動「アジア学生交流環境フォーラム」を開催しており、これまでに7カ国375名が参加しました。2016年は「生物多様性と叡智」をテーマに8月3日から8日まで日本で実施し、カンボジア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの大学生84名が、各国の環境問題について活発に意見を交換しました。学生たちは、ユネスコ世界遺産の知床半島で野生動植物の観察や、北海道標茶町虹別での植樹活動などのフィールドワークを通じて、自然との共生について学習しました。



### 環境教育セミナー「Beyond Biodiversity 2016 生物多様性を超えて」

2016年10月にベトナム国家大学ハノイ校において環境教育を実施し、ベトナムの大学生やハノイ市民の皆さま120名が参加しました。環境資源の保護・管理・利用に関する講義やフィールドワークを通じて人間と自然の共生や多様な社会文化を研究し、人々が生活の豊かさを維持しながら、持続的に発展する世界の実現について考察しました。



## 【イオンと東京大学の取り組み】

### 給付型奨学金制度「イオンスカラシップ」

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（以下、イオン1%クラブ）は2006年より、アジア各国の大学生および日本で学ぶアジアの私費留学生を対象とした給付型奨学金制度「イオン スカラシップ」を実施しています。経済的支援の他、日本で学ぶ奨学生を対象としたセミナーの開催やボランティア活動への参加機会の提供などを行い、学生の皆さまの成長を支援しています。日本をはじめ、中国、タイ、ベトナム、インドネシア、カンボジア、ミャンマーの計7カ国34大学と提携し、2016年度までにのべ4,393名の学生に奨学金を付与しています。東京大学とは同制度の開始年度から提携しています。

### 「東京大学<sup>しよくもん</sup>稷門賞」受賞

イオン株式会社（以下、イオン）およびイオン1%クラブは2016年10月、「東京大学稷門賞」を受賞しました。同賞は、ボランティア活動及び援助等により、同大学の研究活動の発展に大きく貢献した個人・法人・団体に贈呈されるものです。イオンとイオン1%クラブが東京大学大学院農学生命科学研究科と協力し、民間レベルでの植物病対策強化と農産物の生産性向上を実現するため、小売業で初めて同研究科の「植物医科学講座」に寄付を行ったことが評価されました。イオンはイオン1%クラブを通じて、同講座に対し、2011年度から2013年度の3年間にわたり総額9,000万円を寄付しました。

